

平成30年10月25日
消 防 庁

「消防防災科学技術研究推進制度」平成31年度研究開発課題の募集

「消防防災科学技術研究推進制度」は、消防防災行政に係る課題解決や重要施策推進のための研究開発を委託する競争的資金制度です。

平成31年度は、近年の自然災害の増加や高齢社会の到来、社会資本の老朽化などを踏まえて、消防防災分野における課題を解決するため、ICT等を活用した研究開発テーマを設定し、下記のとおり研究開発課題を募集します。

1. 募集期間

平成30年10月25日（木）～平成30年12月20日（木）17時まで

2. 対象とする研究開発課題（募集概要、研究開発期間等は別紙1を参照）

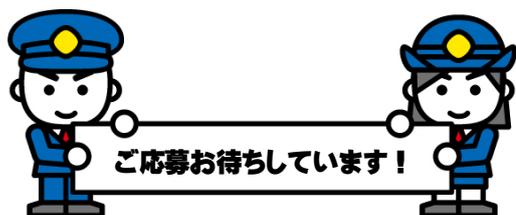
○ テーマ設定型研究開発（消防庁があらかじめテーマを設定するもの）別紙2参照
・重要研究開発プログラム ～ 『G空間情報やICTを活用した災害対応のための新たな装備・資機材等の開発・改良』
・重要施策プログラム ～ 『熱中症による救急搬送の傾向の分析』など 他6テーマを設定
○ テーマ自由型研究開発（研究者が自ら設定したテーマによる提案を募集）

※これまでに採択された代表的な事例については、別紙3をご参照下さい。

3. 応募方法

[公募要領](#)に従い、府省共通研究開発管理システム(e-Rad)により申請を行ってください。

※この公募は、平成31年度予算の成立を前提として実施するものであるため、予算が成立しなかった場合には契約の締結ができない場合もあり得ることをあらかじめご承知おきください。



< 担当 >

消防庁総務課（消防技術政策担当）

田中・佐藤

Tel : 03-5253-7541 Fax : 03-5253-7533

Mail : gisei2@ml.soumu.go.jp

「消防防災科学技術研究推進制度」平成31年度研究開発課題の募集概要

テーマ設定型研究開発 ※消防庁があらかじめテーマを設定

区 分	概 要
重要研究開発プログラム	「統合イノベーション戦略」（平成30年6月15日閣議決定）等の政府方針や消防機関のニーズを踏まえ定めた重点研究開発目標を達成するため、消防研究センターにおける直接研究や消防庁の調査検討事業等に資する技術の研究開発を募集
重要施策プログラム	以下の分野について、消防庁の重要施策の推進に資する技術の研究開発を募集 [募集する技術の例] ○ 熱中症による救急搬送の傾向の分析 ○ 布団類や衣類に特化した防災処理方法等の研究

テーマ自由型研究開発 ※テーマ設定を含め提案を受付

区 分	概 要
現場ニーズ対応型研究開発事業	消防機関が直面する課題を解決するためのシーズを活用した研究開発で、消防機関等の具体的ニーズとその成果の導入が見込める研究開発を募集します。
地域スキーム導入型研究開発事業	地域の消防防災力の向上を実現するため、学術研究に基づく効果的なスキームをモデル地域に導入するとともに、他の地域への展開を目指す研究開発を募集します。

各区分における申請経費の上限、実施期間等

区 分	概 要	申請経費の上限		実施期間
		テーマ設定型研究開発	テーマ自由型研究開発	
実用可能性調査 (フェーズ1)	消防防災でのニーズ調査や、技術シーズを保有している大学・企業等が実装化に向けて必要となる基礎研究のための実用可能性調査を実施するフェーズ。	260万円/年度	260万円/年度	1年間
基盤研究 (フェーズ2)	消防防災分野に必要とされるニーズをすでに把握しており、要素技術の信頼性、品質の向上、システム的设计・運用に関する研究開発やプロトタイプの作成など、実装化に向けて必要となる基盤研究を実施するフェーズ。	2,600万円/年度	1,300万円/年度	1~2年間
社会実装支援 (フェーズ3)	消防防災分野に必要とされるニーズを把握した上での基盤研究が終了しており、社会実装を目指し、モデル消防本部への配備や実践タイプの製作等の研究を実施するフェーズ。	5,000万円/年度	2,500万円/年度	1~2年間

※申請経費が少額であり、成果を達成する見込みの高い優れた申請がある場合は、予算の枠の中で予定件数以上の採択を行う場合があります。

テーマ設定型研究開発課題の対象技術

各テーマについて示す目標とする成果達成時期に、所要の成果が見込める研究開発課題を募集（詳細は公募要領を参照）

(1) 重要研究開発プログラム

重点研究開発目標技術	公募する研究課題のテーマ	期間（最大）
消防防災活動におけるSociety5.0の実現に資する新たな装備・資機材等の開発・改良	G空間情報やICTを活用した災害対応のための新たな装備・資機材等の開発・改良	2年間

(2) 重要施策プログラム

施策分野	公募する研究課題のテーマ	期間（最大）
救急分野	① 熱中症による救急搬送の傾向の分析	1年間
救急分野	② 救急活動服の基準の見直し	2年間
救急分野	③ ICTを活用した救急活動時からの情報共有に関する調査研究	2年間
予防分野	④ 布団類や衣類に特化した防災処理方法等の研究	2年間
危険物施設分野	⑤ 地震時の大型石油タンクの浮き上がり挙動解析手法の高精度化	2年間
特殊災害分野	⑥ 林野火災の効果的な消火方法に関する研究開発	2年間
消防分野	⑦ 環境配慮型B火災用の泡消火剤の開発	2年間

クラウド型救急医療連携システムの研究

MCPC award 2016 総務大臣賞ほか

代表研究機関等：福井大学医学部、勝山市消防本部、嶺北消防組合消防本部、大野市消防本部

研究概要：急性心筋梗塞発症患者の救命率の向上に資するため、タブレット／スマートフォンを用いた12誘導心電図とGPS救急画像を現場の救急隊と搬送医療機関等がクラウド上で共有するシステムを開発。これにより、救急搬送時間の短縮や救命率の向上が期待される。



高圧水駆動カッターの研究開発

平成23年度第9回産学官連携功労者表彰総務大臣賞

代表研究機関等：櫻護謨株式会社、株式会社スギノマシン高圧装置事業部、首都大学東京機械工学専攻、東京消防庁消防技術安全所

研究概要：高圧水が持つエネルギーを高圧水駆動モーターで回転運動に変換し、切断刃に冷却水を掛けることで、火花の飛散量を大幅に抑制した技術の研究開発を行った。更に、ガソリン等の可燃性気体が発生している災害現場においても、引火の危険性を大幅に低減し、火災現場等の濃煙による酸欠状況下や、水中においても切断可能となった。



少水量型消火剤の開発と新たな消火戦術の構築

平成19年度第6回産学官連携功労者表彰総務大臣賞

代表研究機関等：北九州市立大学、シャボン玉石けん(株)、(株)古河テクノマテリアル・北九州市消防局

研究概要：界面活性剤をベースにし、かつ消防隊が使用することが出来る性能を備えた消火剤の開発により、放水量を従来の約17分の1に低減させた。また、消防車両や機材の小型軽量化により、消火活動の効率化・機動性を増大させる新たな消火戦術を提案した。



水／空気2流体混合噴霧消火システムを用いた放水装備

平成17年度第4回産学官連携功労者表彰総務大臣賞

代表研究機関等：三菱重工業株式会社横浜研究所、横浜市消防局、独立行政法人消防研究所(現消防研究センター)

研究概要：都市の高層化火災への対応、消火活動時の下階への水損被害への抑制に効果のある、水と空気を同時に噴霧する2流体ノズル消火システムの研究開発を行った。この技術は、消火ホースの小口径化・軽量化により、マンション1室での火災や車両火災にも有効である。

